

## 重点取組分野の数値目標と達成に向けた取組

重点取組 の分野	R10（2028）年度の数値目標	令和7年度の取組	
		取組目標（令和7年6月時点）	取組状況（令和7年12月末現在）
動物福祉	動物福祉評価の全項目のうち「×：改善が必要」「△：改善の余地がある」と評価された項目の割合：全項目の5%以下 (参考：R4（2022）年度評価：21.2%)	R6（2024）年度評価を実施する。 (：R5（2023）年度評価：34.0%)	資料2のとおり 参考：R6（2024）年度動物福祉評価の全項目のうち「×：改善が必要」「△：改善の余地がある」と評価された項目の割合：29.8%
保全	放鳥・モニタリングするオオワシの累計数：5羽	オオワシの放鳥に伴う技術的懸念の解消のため科学的知見の集積に取り組むとともに、引き続きオオワシの関係者との合意形成を図る。 (R6（2024）年度：0羽)	R7年9月に専門家への相談を行い、課題について協議を行った。 オオワシの放鳥に向けた技術蓄積を目的として、傷病保護された中型猛禽類の試験放鳥を計画。R7年11月に放鳥対象となるノスリを受け入れ、リハビリを開始し、R8春の放鳥に向けて今後トレーニングを実施予定。(R7年12月末現在0羽)
保全	認定動物園等への研修会実施件数：年2回	認定動物園となった施設が今のところないため、研修会実施は未定。 保全活動連携協議会（準備会）の開催等により情報共有・連携に取り組むほか、準認定施設への必要な情報提供や助言等の支援によりステップアップを図る。また、未登録施設に対し、準認定施設への登録に向け働きかけを行う。 (R6（2024）年度研修会実施：0件)	認定となった動物園はないため、研修会実施の見込みはなし。 準認定施設との情報共有・連携の状況は資料2のとおり。
教育	園内イベントへの参加を通じて生き物と人との関わりの大切さを理解した人の割合：100%（イベント参加者アンケート）	園内イベント等（子どもの1日飼育係、円山ZOOナイトツアー等）を通じて、生き物と人との関わりの大切さへの理解を促進する。 (R6（2024）年度：92.9%)	・子どもの1日飼育係：6日間実施 ・円山ZOOナイトツアー：4日間実施 ※アンケートは集計中。
調査研究	H P掲載の調査研究報告書等の閲覧回数：毎年増加	論文、報告書等の更新を適宜行うことにより、閲覧回数の増加を目指す。 (R6（2024）年度：1,226回)	「調査研究」ページに新たな情報を掲載。 <a href="https://www.city.sapporo.jp/zoo/others/research.html">https://www.city.sapporo.jp/zoo/others/research.html</a> ※R7（2025）年7月に「Ultrasonographic features and blood biochemistry findings of cholangiocarcinoma in a captive polar bear ( <i>Ursus maritimus</i> ) (Vet Record Case Reports)」を掲載。 (R7（2025）年4月－11月：2,612回)
リ・クリエイション	円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合：75%（来園者アンケート） (参考：R4（2022）年度63%)	円山ZOOガイドや各種教育プログラムを通じて来園者の満足度を上げていく。 (R6（2024）年度：97.3%)	・円山ZOOガイド R7.4-11月：3.0件/日（R6.4-12月：2.5件/日） ・飼料庫ガイド、獣医のお仕事など13の教育プログラムをR7.4-11月で延べ220回実施（R6.4-12月は199回） 円山動物園を他の人にも勧めたいと答えた人の割合：98.0%（R7.4-11月平均）
リ・クリエイション	円山動物園にまた来たいと回答した人の割合：79%（来園者アンケート） (参考：R4（2022）年度74%)	来園者の観覧環境の充実を図るため、以下の取組を継続していく。 ・園内掲示の見直し ・来園者から寄せられた意見等への速やかな改善・対応 (R6（2024）年度：97.9%)	4、11月の休園週間等に園内掲示物の一斉点検を行い、補修が必要な看板や内容が古くなっている展示サイン等を更新したほか、来園者からの意見を踏まえ遊具を補修、再設置した。 円山動物園にまた来たいと回答した人の割合：98.8%（R7.4-11月平均）
基盤整備	持続可能な運営手法の導入検討	経営基盤の安定化や基金の活用など持続可能な動物園運営の在り方について検討する。	昨年度、経営基盤安定化調査事業を実施し、調査委託業者から経営安定化に向けた方策として3分野10項目の提案があり、そのうち今年度は、動物への飼料寄付の拡大に取り組んでいる。
施設整備	園内施設の修繕必要件数：73か所 (参考：R4（2022）年度169か所)	各案件の優先順位、修繕方法等を決め、修繕を進めていく	各案件の状態を把握し、優先順位・修繕方法を決め修繕を進めた。 (参考R6年度末117件、R7年11月末現在94件)
施設整備	施設保全計画の策定	外壁や屋上防水、ポンプや照明などの設備の長期修繕計画策定に向けて、劣化調査等を実施していく。	施設保全計画の策定に向け、専門業者による劣化調査等を実施中。
施設整備	北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施	大学等との調査研究を進め、北海道ゾーンのコンセプトや取り組み内容、展示種や展示手法を検討していく。	・北海道ゾーンの獣舎配置や設備について大学等と共同で調査研究を進めている。 ・今年度末を目途に調査結果を基に取りまとめを行う予定。